

ADVENTURE

2019年6月期第3四半期
決算説明資料

株式会社アドベンチャー

(証券コード：6030)

1. 第3四半期業績概要
2. 今後の展開
3. 業績予想
4. 会社概要
5. 参考情報

1. 第3四半期業績概要

ADVENTURE

① 3Qサマリー（連結PL）

前年同期比で増収増益（収益259%、営業利益290%）

（単位：百万円）

	2018 3Q (※1)	2019 3Q	増減（率）
取扱高（連結）	21,711	34,728	13,016（160%）
収益	5,895	15,290	9,395（259%）
営業総利益	2,316	4,354	2,037（188%）
販管費及び一般管理費	2,157	3,900	1,742（181%）
うち広告宣伝費	1,530	2,461	931（161%）
営業利益	155	450	295（290%）
四半期利益	87	288	201（330%）
親会社の所有者に帰属する四半期利益	88	292	203（330%）

（※1） 前期をIFRS基準にして比較

1. 第3四半期業績概要

ADVENTURE

② 3Q累計サマリー（連結PL）

前年同期比で増収増益（収益364%、営業利益213%）

（単位：百万円）

	2018 通期（※1）	2018 3Q累計（進捗）	2019 3Q累計	増減（率）
取扱高（連結）	81,604	53,974（66%）	94,059	40,084（174%）
収益	18,788	9,987（53%）	36,312	26,325（364%）
営業総利益	9,124	6,387（70%）	10,770	4,382（169%）
販管費及び一般管理費	8,550	5,916（69%）	9,771	3,854（165%）
うち広告宣伝費	6,177	4,377（71%）	6,449	2,072（147%）
営業利益	525	467（89%）	995	528（213%）
四半期利益	337	273（81%）	620	347（227%）
親会社の所有者に帰属する四半期利益	341	277（81%）	625	347（225%）

（※1） 前期をIFRS基準にして比較

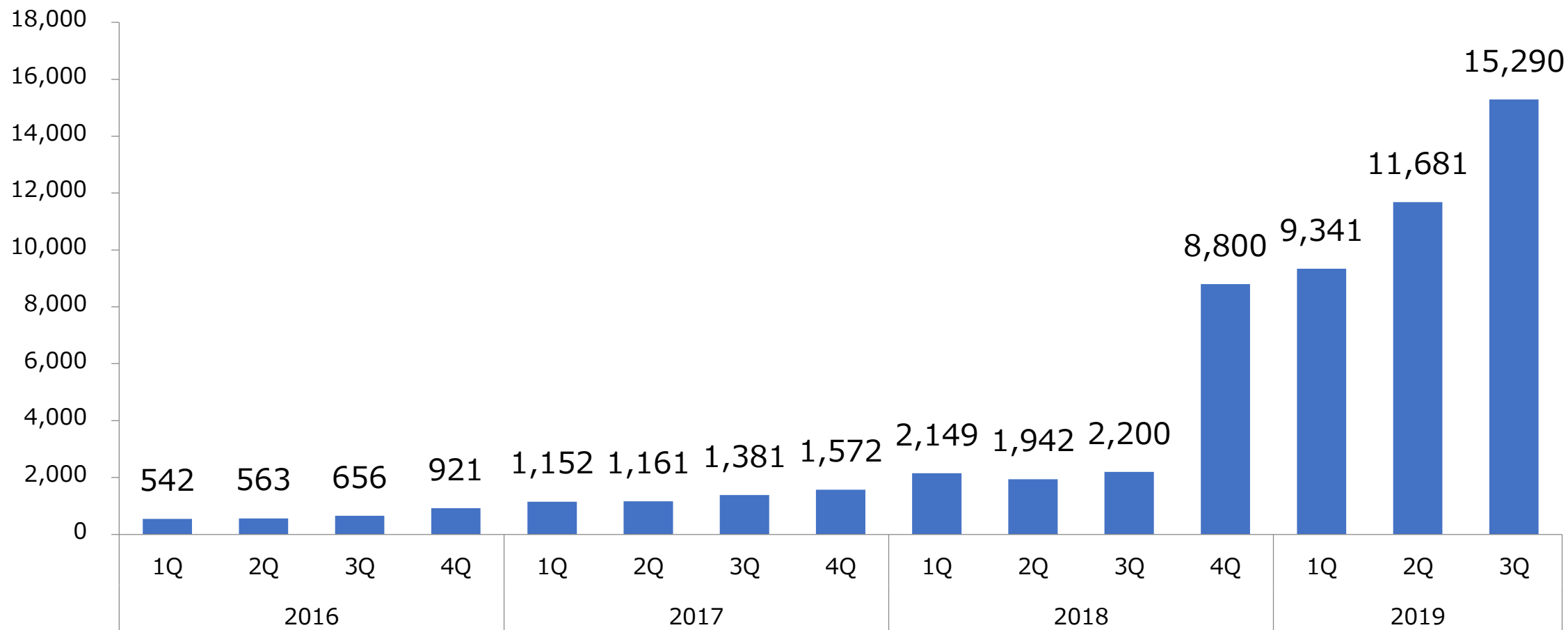
1. 第3四半期業績概要

ADVENTURE

③ 収益四半期推移

収益は順調に拡大

(百万円)



※今期1QからIFRS基準で表示

1. 第3四半期業績概要

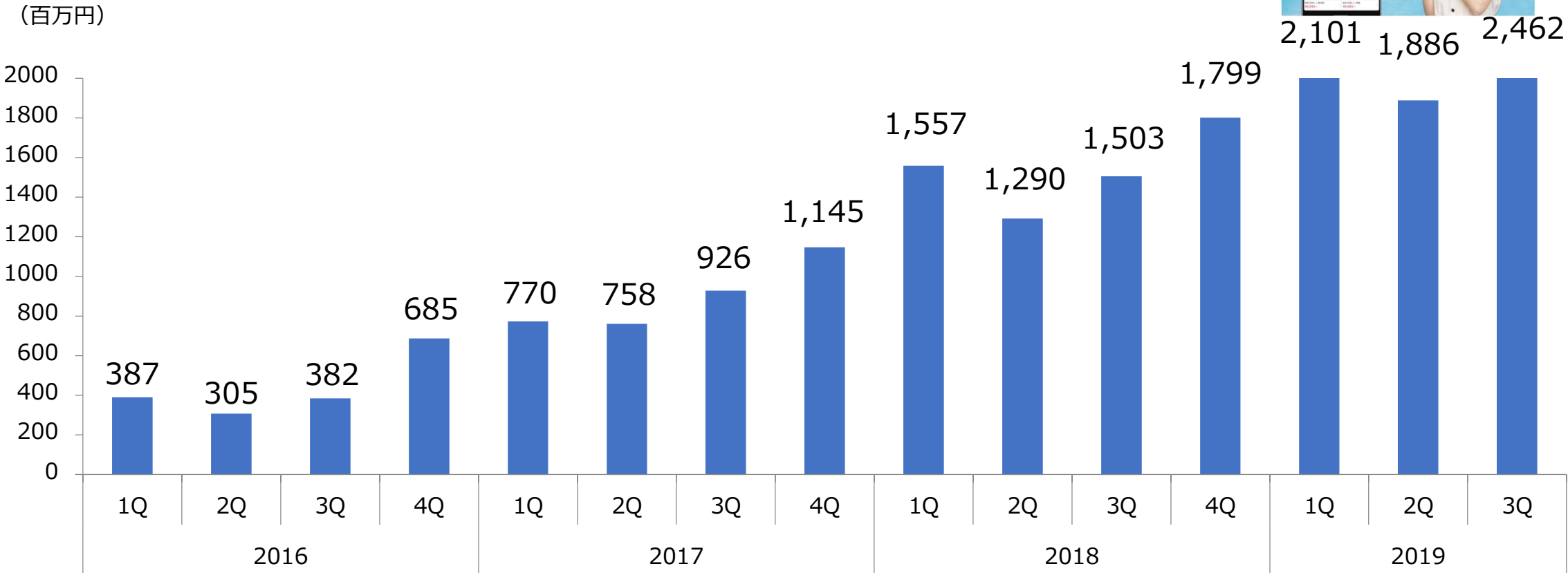
④ 広告宣伝費四半期推移

3Q累計広告費64億円（前期比148%）
TVCM継続

TVCM開始 →



2,101 1,886 2,462



※今期1QからIFRS基準で表示

1. 第3四半期業績概要

ADVENTURE

⑤ 3Qサマリー（連結BS）

現金および現金同等物は42.4億円（前期末比18.7億円増）

（単位：百万円）

	2018 4Q	2019 3Q	増減（率）
流動資産	8,089	14,464	6,374（179%）
現金および現金同等物	2,373	4,246	1,872（179%）
非流動資産	2,678	4,608	1,929（172%）
のれん	1,273	2,537	1,263（199%）
資産合計	10,768	19,072	8,304（177%）
流動負債	6,462	13,673	7,211（212%）
非流動負債	2,881	3,396	515（118%）
負債合計	9,343	17,070	7,726（183%）
資本合計	1,425	2,002	577（141%）

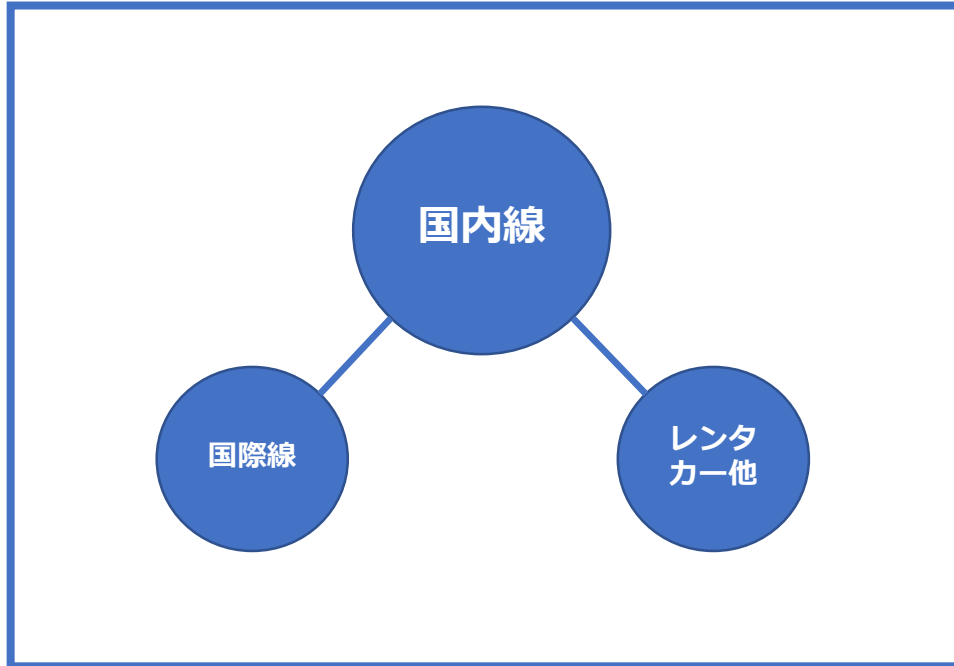
※IFRS基準で表示

2. 今後の展開

ADVENTURE

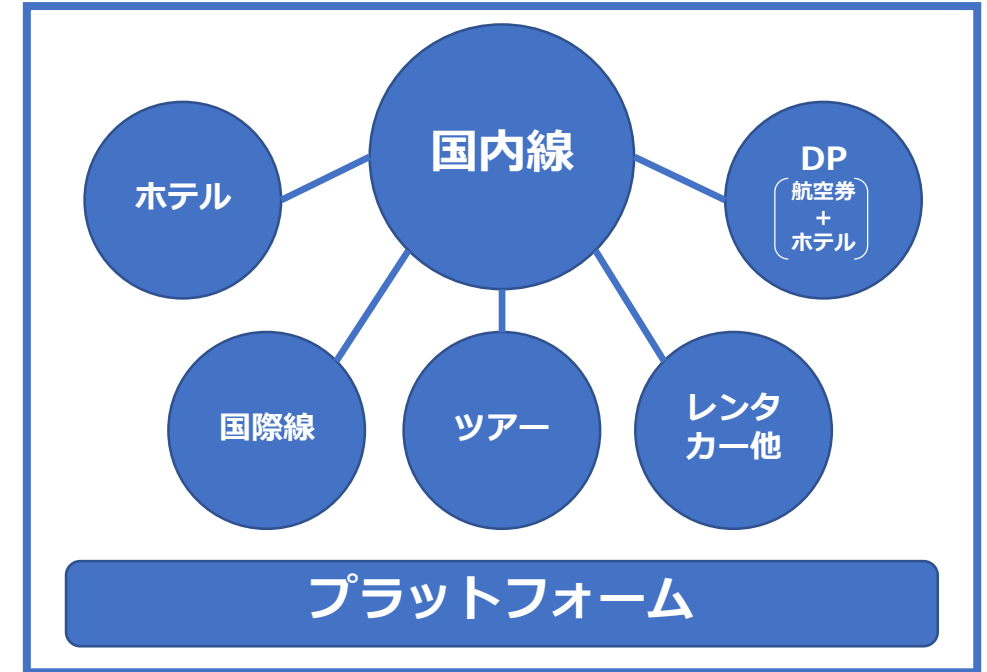
① skyticket（旅行関連事業）について

【これまでの実績】



- ・国内線の成長がメイン
- ・国際線とレンタカーの成長率が高い

【今後の展開】



- ・国際線、レンタカーの高成長率継続
- ・ホテルとDPの取扱と成長加速
- ・子会社ツアー等の他社商品販売
- ・オープンプラットフォーム化、マーケットプレイス化

3. 業績予想

① 連結業績予想、月次取扱高

通期連結収益予想

アドベンチャー本体、連結子会社共に順調に推移

(単位：百万円)

	2018 通期実績	2019 業績予想	増減（率）
収益	18,788	48,000	29,212 (255%)

※営業総利益以下は現時点で予想が困難であるため、業績予想の開示はしていません。

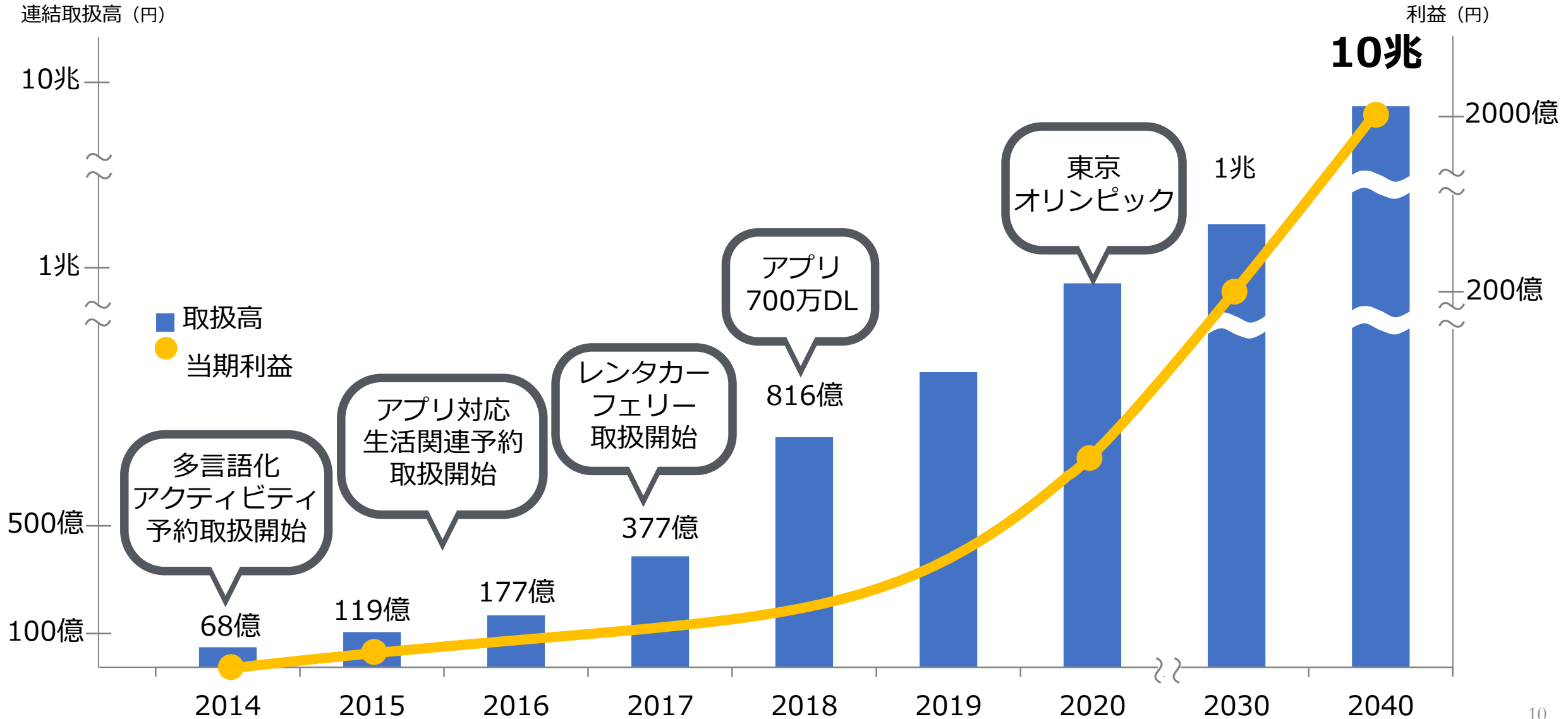
月次取扱高任意開示の取りやめ

当社はこれまで、子会社を含めた月次取扱高等につきましては、IRニュースにて任意情報として開示しておりましたが、子会社の上場準備が進んできており、子会社の情報管理及び子会社の親会社からの独立性確保の観点から2019年3月（2019年4月10日公表）の月次取扱高の開示を最後として、今後は非開示とさせていただきます。

3. 業績予想

ADVENTURE

② 中長期成長イメージ



4. 会社概要

ADVENTURE

① 会社情報

社名	株式会社アドベンチャー (英文社名 Adventure, Inc.)
設立	2006年12月21日
資本金	5億5,718万200円
代表者	代表取締役社長 中村 俊一
所在地	東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー24F
事業内容	コンシューマ事業（航空券等販売サイト「skyticket」の運営）、投資事業
関連会社	旅行系4社、その他6社

アジア圏の企業で唯一
「skyscanner Traveller Trust Awards 2018」を受賞



「日本テクノロジーFast50」受賞

50 | Technology **Fast 50**
2018 Japan **WINNER**
Deloitte.

「アジア太平洋地域 テクノロジー Fast500」受賞

500 | Technology **Fast 500**
2018 APAC **WINNER**
Deloitte.

4. 会社概要

② 役員一覧

役職	氏名	略歴
代表取締役社長	中村 俊一	慶応義塾大学卒、大学在学中の2004年に起業（IT関連企業）、2006年からOTAとして旅行事業に参入
取締役	中島 照	Western Illinois University卒、KLab(株)等を経て、2013年に当社入社
社外取締役 独立役員	宇都宮 純子	東京大学、Columbia Law School卒、宇都宮・清水・陽来法律事務所共同代表、(株)ZOZO監査役、(株)ソラスト監査役
社外取締役 独立役員	三島 健	The University of New South Wales (Postgraduate)卒、イーベイ・ジャパン(株)、エクスペディアホールディングス(株)代表取締役等を経て(株)JTWeb販売部戦略統括部長
社外取締役 独立役員	雷 蕾	一橋大学大学院卒、野村証券(株)、(株)ネクソンを経てシンフロンテラ(株)代表取締役
社外常勤監査役 独立役員	児玉 尚人	横浜国立大学卒、監査法人トーマツ（現有限責任監査法人トーマツ）を経て2013年に当社監査役就任、公認会計士
社外監査役 独立役員	山川 善之	早稲田大学卒、響きパートナーズ(株)代表取締役、元(株)そーせい代表取締役副社長
社外監査役 独立役員	角田 千佳	慶応義塾大学卒、野村証券(株)、(株)サイバーエージェントを経て(株)エニタイムズ代表取締役

4. 会社概要

ADVENTURE

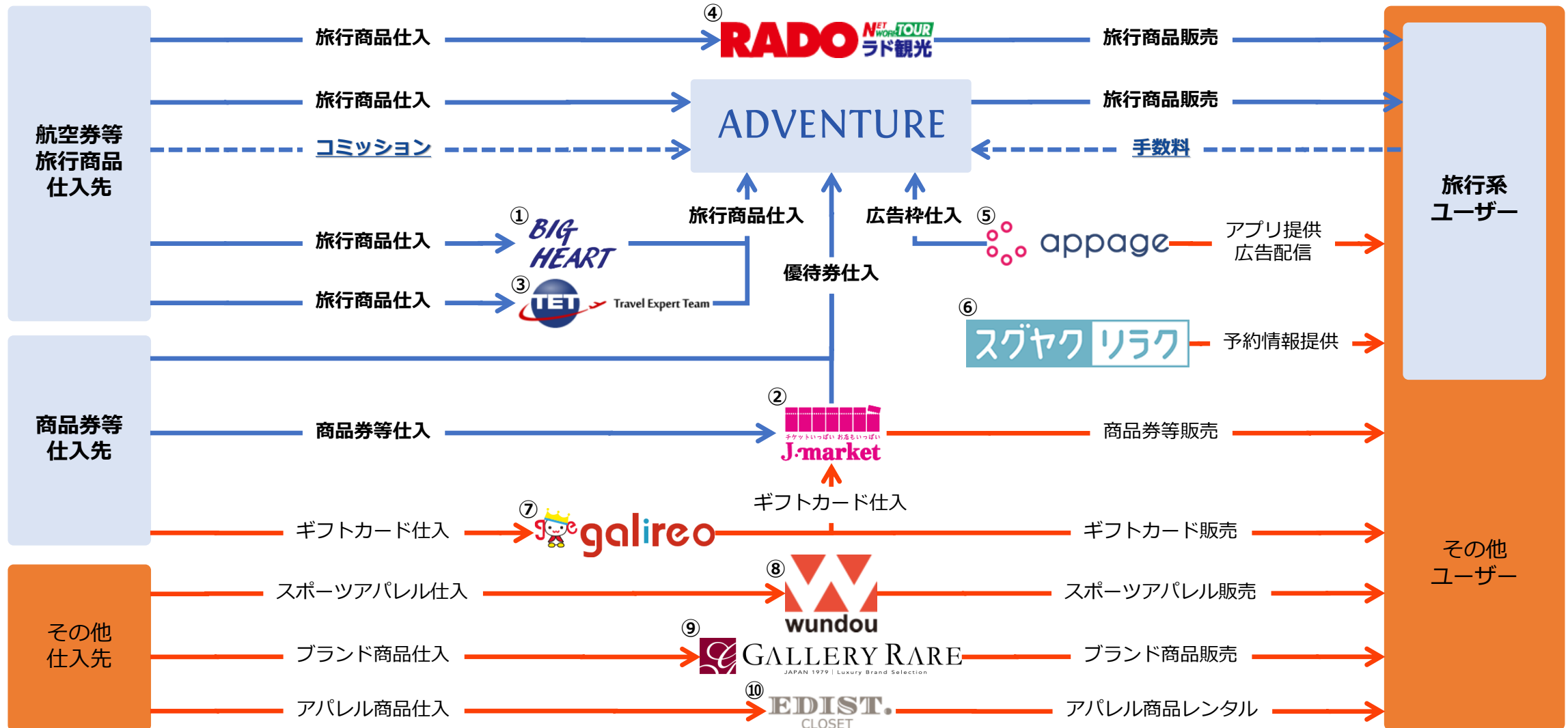
③ 主要グループ会社

	No.	会社名	事業内容	備考
旅行系	①	ビッグハートトラベルエージェンシー(株)	オンライン旅行業	
	②	コスミック流通産業(株)	チケット二次流通、両替事業	首都圏を中心に16店舗展開、航空会社株主優待券の仕入
	③	(株)TET	航空券の発券・仕入	JAL認可代理店
	④	ラド観光(株)	ツアーの企画・販売	全国に6拠点、2019年1月23日取得
他	⑤	AppAge, Limited.	アプリ開発、海外マーケティング	香港拠点
	⑥	(株)スグヤク	マッサージ、歯科のオンライン予約	合併会社 (51%)
	⑦	コスミックGCシステム(株)	ギフト券販売	東京、神奈川に3店舗
	⑧	(株)wundou	スポーツウェアの企画・販売	
	⑨	(株)ギャラリーレア	ブランド商品の二次流通	大阪を中心に11店舗 (シンガポール・香港に法人あり)、持株81%
	⑩	(株)EDIST	衣料品等のレンタル業	2019/1/16設立

4. 会社概要

④ ビジネスモデル

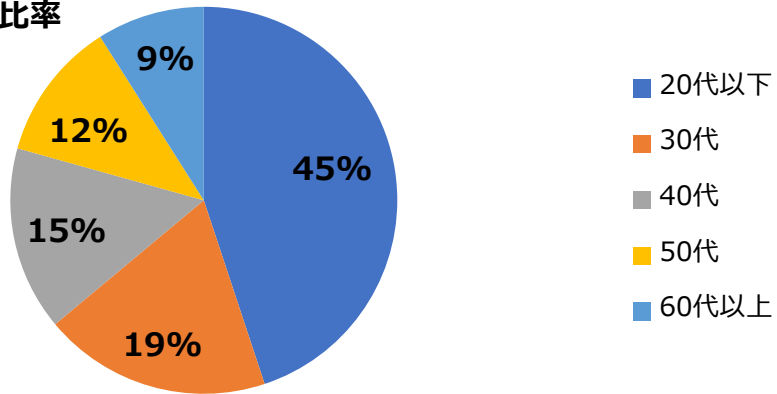
→ 旅行系ビジネス
→ その他ビジネス



5. 参考情報

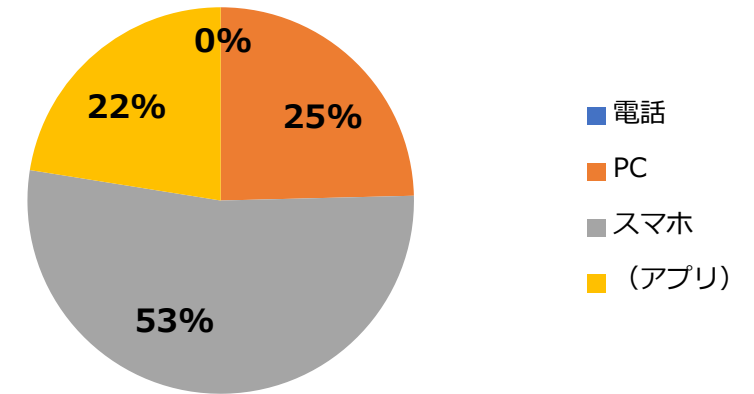
① skyticket関連データ

年齢別航空券申込件数比率



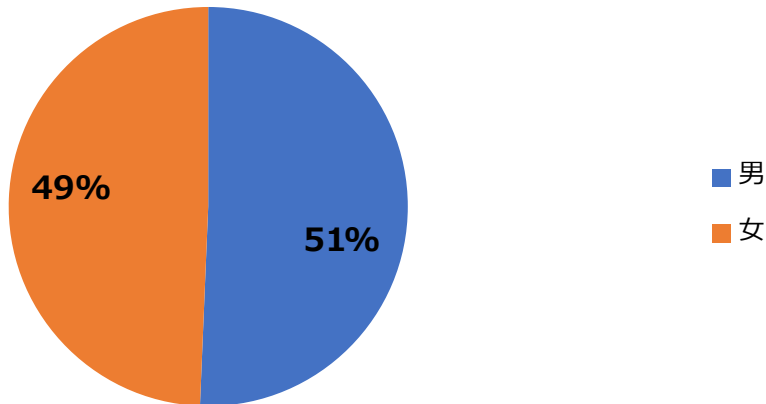
・ユーザーの64%が30代以下

申込手段別件数比率



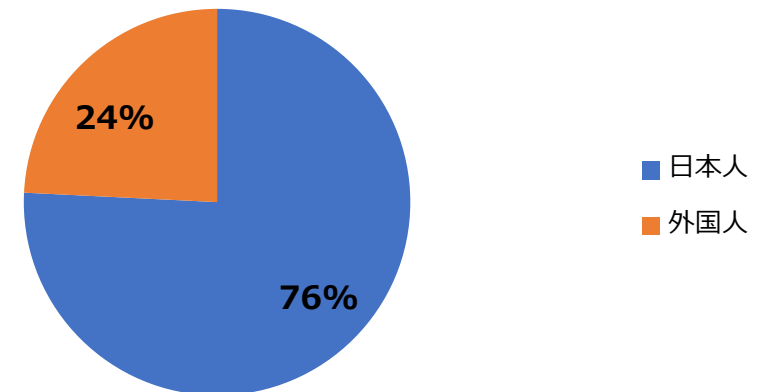
・スマホユーザーが全体の75%（スマホ+アプリ）、スマホユーザーの30%（全体22%）はアプリを經由で申込

航空券申込件数男女比率



・男女の比率はほぼ1:1で偏りはない

国際線外国人申込比率



・国際線申込者の24%が外国籍、韓国、中国等のアジア圏を中心に100カ国以上の申込あり

※今期3Q累計の申込数から算出

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合でも、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。